



美人のオキテ

シロガネユキ

美人のオキテ

「美人のオキテ」 シロガネ ユキ

私の名前はレイ。勿論レイのレイは端麗の麗。

世の中には多くの美人がいると思うけれど、私ほど美しい女は何所を捜しても居ないと思う。いえ、こう思っているのは私だけではないわ。

私は単なる自意識過剰なのではなくて、現にその事を証明できるような思い出話は沢山あるの。

例えば私は思いつくだけのミスコンに応募し、全て優勝しているわ。ミスコンはコネでなんとかなると言われがちだけれども、私ほど美しいとなれば話は別。街を歩けば必ず芸能プロダクションから声を掛けられるのよ。

ナンパもされそうなものだけれど、私の近寄りがたい美しさに、その辺のレベルの低い男なんて、声を掛けることすら出来ないの。せいぜい同じくらいのレベルの女でもひっかけてろって感じ。

知ってる？ 美人はそう簡単に男から声を掛けられないものなのよ。

まあ、そんな私だけれども、誰だって欠点はあるわ。私にもそれはあるわけで.....その、私の場合は、それがちょっとナイーブなものなのよ。

ズバリ打ち明けてしまうと、エッチの時、達する瞬間に白目をむいてしまうというものなの。

知人に相談すると、皆きまってこう言うの。

「レイちゃんはとても綺麗なんだから、そのくらいの事、どうってことないじゃない！」

違うのよ。あんたみたいなブスには私みたいな美人の悩みなんて、これっぽっちも分からないんだわ。

なんせ、私は美人なのよ。それも特上の！ その私にそんなチンケな欠点があっていいと思う？ 男は私に神聖なる何かを感じて近づいてくるわけ。それなのに、肝心なエッチの時に白目をむいちゃうなんて.....ブスだったらまだしも、この私がよ。

ああ、運命って過酷なものだわ。ブスが羨ましい。

知ってる？ 美人はブスよりも自分を磨き続けなければならないのよ。

もし私がブスだったら、こんな悩み事なんて、とっつちっぽけな事で、それこそエッチの体位を変えたり、男が目を瞑ればそれで済むことなのよ。

でも私の場合は違う。男は最後まで私の表情の一つ一つを見て興奮しているの。自分の気持ちを高めているっていうのかしら。それなのに、最後の最後の高まってきたところで私が白目をむいちゃうもんだから、酷い男だと萎えちゃったりするわけ。

私が自分の欠点を、今ごろになって見つめるようになったのには訳があるの。最近付き合い始めた彼にぞっこんなのよ。

彼はとっても格好がいい人。顔は勿論の事、性格もお金も申し分なし。私もそろそろ適齢期だし、生まれてくる子供の事を考えると、相手はこんな人がいいわと思っているの。

今、付き合って三ヶ月になるのだけど、エッチはまだ。とっても真面目な付き合いなのよ。

でも来月、ついに運命の日がやってくるの。彼と初めて旅行に行くのよ。それまでにどうしてもこの欠点を直さなければならぬという訳。

旅行の日程が決まってからというもの、私は本気で欠点の克服に努めるようになったわ。

精神安定剤や健康食品を試したり、普段から目に力を入れて、まばたきの回数を減らしたり、気功やヨガ、自律訓練法、ありとあらゆる方法を尽くして、この欠点を克服しようと努力をしたの。

知ってる？ ローマは一日にしてならず、美人も一日にしてならずよ。

そして努力の甲斐あって、私は欠点を徐々に克服していったわ。克服するまでに三十人程の男を練習台にしたけれどね。

もくろみは性交……いやもとい、成功！

運命の日はやってきた。熱海に二人きりの一泊旅行。私たちの気持ちは否応無しに高まっていったわ。やがて夜が来て、彼の手が私の肩に触れ……私達はそういう事に……。

私は行為の最中、ずっと自分に言い聞かせていたの。大丈夫、私なら大丈夫。これから私は新たな門出をするの。彼と一緒に……って。

彼の呼吸が激しくなる。私も目に力を入れて、快楽と戦ったわ。

彼もとっても気持ちよさそう。私はそんな彼を愛しく思ったわ。

と、その瞬間。彼が「うっ」と言って、白目をむいたの。

彼の顔があまりにも怖くて、私は思わず膣痙攣を起こしてしまったわ。

私達はそのままの状態ですぐに病院に運ばれたの。正直言ってショックだったわ。だってこれまでの努力が水の泡だったのだから。

私は搬送されている間、思ったわ。

次は膣痙攣を克服しなくっちゃ……てね。

知ってる？ 美人は前向きなものなのよ。

